

一般社団法人日本地震工学会

第2回 地盤情報データベースを用いた表層地質が地震動特性に及ぼす影響に関する研究委員会
議事要旨

1. 日 時 平成 23 年 9 月 16 日 (水) 14 時～16 時

2. 場 所 東工大田町C I C 7 0 8 会議室

3. 議 題

(1) 話題提供

(2) 地震工学会年次大会E S G (Effects of Surface Geology on Seismic Motion : 表層地質が地震動に及ぼす影響) セッション状況報告

(3) I A E E / I A S P E I J W G - E S G 国際シンポジウム報告

(4) その他

4. 配布資料

ESG 2-1 第1回E S G 研究委員会議事要旨案

ESG 2-2 IAEE/IASPEI JWG on ESG business meeting ROD

ESG 2-3 10th International Workshop on Seismic Microzoning and Risk Reduction に関するお知らせ

5. 出席者

*委員長 山中 (東工大)

*委員 池浦 (鹿島), 王寺 (中央開発), 川瀬 (京大防災研), 工藤 (日大), 清木 (宇都宮大), 東畑 (東大), 長瀬 (応用地質), 南雲 (東電設計), 東 (電中研), 横井 (建研), 吉嶺 (首都大学)

*オブザーバー 野口 (電中研)

6. 議事概要

(1) 話題提供

- ・東畑委員より地盤工学関連話題として、大震災に関連して浦安市の復興に関する委員会 (浦安市液状化対策技術検討調査委員会) が組織され、約 190 本のボーリング調査結果が整理されていることが報告された。また、地盤工学会の活動状況、各種非線形応答プログラムの公開状況が報告された。
- ・野口オブザーバーより、東北地方太平洋沖地震時のスペクトル比を用いた指標 (DNL) に基づく非線形地盤応答に関する報告がなされた。主なコメントは以下の通り。
 - KiK-net の地表/地中の H/H スペクトル比で地中が非線形化している場合があるのではないか。
 - DNL 指標では地震動振幅が小さくなると線形時の値に戻るが、間隙水圧の上昇がある場合には地盤物性が線形時に戻るには少なくとも数十分かかる。
 - サイクリックモビリティが見られた観測点と液状化地点との対応は? 地盤工学会で液状化地点をまとめた結果が関東地方整備局のHPで見られる。
 - 卓越周期のシフトやスペクトル振幅の低下といった従来指標との対応は見ておく必要がある。

(2) 地震工学会年次大会におけるオーガナイズドセッションの状況について

- ・山中委員長より、8月5日にオーガナイズドセッション「東北地方太平洋沖地震による強震動―地盤構造が地震動に及ぼす影響―」の申し込みを行い申請が通ったこと、9/16現在で4編の投稿があることが報告された。
- ・投稿締め切りは20日24時。(その後、26日24時に延長された。)

(3) IAEE/IASPEI JWG-ESG国際シンポジウム報告

- ・川瀬委員より8月23日～26日に米国UCSBでIAEE/IASPEI第4回ESG国際シンポジウムが開催されたことが報告された。(第1回1992年小田原、第2回1998年横浜、第3回2006年仏グルノーブルで開催。第1回、第2回は当研究委員会の前身である震災予防協会ESG研究委員会が主催。)
- ・8月23日にESG国際ワーキンググループのビジネスミーティングが開催され、各国のESG研究活動状況報告、15WCEEで特別テーマセッションの提案を行うこと、次回のESG国際シンポジウムの開催に台湾とメキシコが名乗りを上げていることが紹介された。
- ・ヨーロッパ、台湾で進められているGEM(Global Earthquake Model)プロジェクトとは?→全世界の地震リスクと統一的に評価するプロジェクト。日本は参加していないが個別に研究者に声かけがある。

(筆記者注：<http://www.globalquakemodel.org/>を参照)

(4) その他

- ・横井委員より、第10回サイスミックマイクロゾーニング・リスク軽減に関する国際ワークショップの開催について紹介があった。2月28日～3月1日於つくば市、100名程度の参加を予定している。
- ・次回は12月16日(金)14:00～(建築会館予定)。

以上